



TITLE:

The Study on the Management after the Major Hepatectomy(Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

Nanba, Yasuo

CITATION:

Nanba, Yasuo. The Study on the Management after the Major
Hepatectomy. 京都大学, 1967, 医学博士

ISSUE DATE:

1967-03-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/212137>

RIGHT:

氏 名	難 波 泰 雄 なん ば やす お
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 記 番 号	論 医 博 第 351 号
学位授与の日付	昭 和 42 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 題 目	The Study on the Management after the Major Hepatectomy (肝広汎切除の術後対策に関する研究)
論文調査委員	(主 査) 教 授 木 村 忠 司 教 授 伊 藤 鉄 夫 教 授 本 庄 一 夫

論 文 内 容 の 要 旨

現在、肝広汎切除術に関しては、幾多の先人の努力により、技術的には少なくとも一応満足すべき状態に立至ったものと云い得るようであるが、その術後の経過については、必ずしも楽観的なものでなく、死亡例も未だ後を断たない状態である。この点に注目して、肝広汎切除直後の死亡率を軽減せしめるためには、如何なる対策を講ずべきかを、主として糖代謝の面より検討した。

実験方法：家兎を用いて60～70%の肝広汎切除を行ない、術直後よりアミノ酸液、高張ブドウ糖液、5%ブドウ糖液及び5%果糖液等を夫々単独に輸注せる群、ならびに全く輸液を行なわなかった照射群を作製し、各群の生存率、血液生化学的性状、肝機能、残存肝の再生率、残存肝のグリコーゲン及び蛋白質の保有量及びその組織像等について比較検討を行なった。

実験結果：5%果糖液を輸注した群では、他の群に比較して、術後の生存率は著しく上昇し、血糖値及び肝機能の検査成績は術後2日～3日目にして既に正常値を示した。また残存肝の再生も極めて急速に営なまれ、術直後の残存肝の退行性変性は軽微であり、肝グリコーゲンもよく保有され、または生成されている事実が認められた。

結論：

- 1) 肝広汎切除時の大きな死亡の原因となった術直後の死亡率を軽減せしめるためには、5%果糖液の輸注を行ない糖代謝の改善を、ひいては肝機能の改善を図ることが、最も大切である。
- 2) 肝広汎切除時のような著しい肝機能低下のある場合には、ブドウ糖液の輸注では、術直後の十分な糖代謝の改善、肝機能の改善は望み得ない。
- 3) 術直後の糖代謝の改善、肝機能の改善は、肝広汎切除後の退行性変性を可及的に軽減し、より速やか且つ円滑に再生機能を営なましめることになる。
- 4) 肝広汎切除直後の脂肪肝は、糖代謝の障害に基づく二次的のものであり、従って糖代謝の改善により、自らこれの発来は防止される。

5) 肝広汎切除に際しては、蛋白質の補給も亦必要、不可欠なことは、いうまでもないが、まず術直後には、糖代謝の改善が第一義的意義を有する。

論文審査の結果の要旨

肝広汎切除直後の死亡率を軽減するためにいかなる対策を講ずべきかについて難波は主として糖代謝の面より検討した。

すなわち家兎の肝臓を60~70%切除し、術直後からアミノ酸液、高張ブドウ糖液、5%ブドウ糖液および5%果糖液などをそれぞれに単独に輸液し、全く輸液を行なわなかった対照群とともに、生存率、血液生化学的性状、肝機能残存肝の再生率、残存肝のグリコーゲンおよび蛋白質保有量およびその組織像等について比較検討した。結果として5%果糖輸液群が他の群に比して著しく高い生存率を示し血糖質、肝機能検査の成績など術2~3日後にして早くも正常値にかえった。また残存肝の再生も急速に営まれ、退行変性は軽微であり肝グリコーゲンもまたよく保有されまたは生成されていた。

果糖に比較してブドウ糖液の輸液では術直後の糖代謝、肝機能のじゅうぶんな改善などは望み得ない。脂肪肝の問題は糖代謝の障害に基づく2次的のものであるから糖代謝の改善により発生を防止し得る。蛋白補給もまた必要不可欠であるがまずこの際は糖代謝の改善が第一義的意義をもち、そのためには5%の果糖の補給がすぐれた方法である。

本論文は学術上有益にして医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。